

受賞作品を読んでみよう。

第56回/小学校中学年の部最優秀・内閣総理大臣賞受賞作品

「私の中の「自分」が生まれる～『ジロジロ見ないで』をきっかけに～」

北海道教育大学付属釧路小学校 6年 高原 楓奈

わたし ひだりはんぶん ほお あざ おお
私の顔の左半分と顎を、痣が覆っている。

あざ
痣を取るための全身麻酔によるレーザー手術をすれば、しろ はだ のぞ さいはつ しゅじゅつ
これまでに十六回の入院・手術を繰り返して来た。確かに、入院も手術も苦痛だが、私の心が一番痛
むのは、手術後一週間、患部に当てがわれるガーゼだ。顔の半分を覆うガーゼは、私をミイラにし
てしまう。人はすれ違い様に私を見る。「どうしたのだろうか?」「事故?」「怪我?」「女の子な
のに…」さまざまに視線は語る。同情や憐れみといった善意と受け取りたいが、その心の発端が
いよう もの み とき こうきしん つ さ しせん
異様な者を見た時の好奇心にあることを、突き刺さる視線が私に教える。私は張り裂けそうな心の
なか さげ ねが み
中で叫ぶ。「お願い。ジロジロ見ないで。」と。

わたし さげ
私の叫びそのままの『ジロジロ見ないで』という本。～”普通の顔”を喪った9人の物語～の
ふくだい
副題と共に、「普通」とは言えない九人の顔写真が表紙に並ぶ。皆が皆、笑顔で。「勇気がある
なあ。」が最初の思い。だがすぐに、別の思いが湧き起こった。「なぜ負い目のある顔を全国にさ
らしてまで、顔で顔を語ろうと決断したの?」この疑問が、私を本の世界に引き込む。夢中で頁を
めくった。「私にはできそうにない。」との思いを持ちながら。

何枚もの写真と共に、九人それぞれの人生が綴られていた。かいめんじょうけっかんしゅ かん
腫・円形脱毛症……病名や原因はさまざま。しかし、手術や薬では普通の顔になれないことでは共
しゅ えんけいだつもうしよう びょうめい げんいん しゅじゅつ くすり ふつう かお
通していた。顔が原因で幼い頃から陰湿なイジメにあったり、何社受けても就職が不採用になっ
かお げんいん いんしつ なんしや しゅうしよく ふざいよう
たり…言い尽くせない程の差別や偏見を皆経験している。「もし私も手術ができなければ同じ思い
を。」私には他人事に思えない。胸の芯がうずいた。ところが――。

ある人は、すれ違い様にジロジロ見る相手に、あえて笑顔でお辞儀する。慌てて視線を反らす人
の多い中でも、笑顔を返す人もいる。その爽快感を大事にしているのだ。いしや むしんけい ことば
浴びせられ、その悔しさをバネに後に看護学の教授にまでなる。「医療に携わる人は、患者の気持
ちがわかる人でいて欲しい」との思いを胸に。この方の心の美しさ、更に、辛さや悔しさの先にあ
るかや のち かんごがく きょうじゅ いりょう たざさ かんじや
る「自分」を持っていることに、私は深い共感を覚えた。

わたし
そして私は確信した。九人は顔の苦難を精神的に乗り越えた「自分」を笑顔で伝えたかったの
かくしん かなん せいしんてき の
だ。大きな壁を乗り越えた人の強さと美しさ、自信に満ちた人生の確かな歩みを。